



試合前、グラウンドに立つ浮島サザンカジュニアーズ（左）と厚木の選抜チームの選手たち。初めての対戦を前に、全力プレーを誓い合った

厚木 ↔ 多賀城

被災地支援が生んだ親善試合



白熱した戦いが繰り広げられた

「よろしくお願いします」。かげろうが揺らめく厚木の野球場に、暑さも吹き飛ばすほどの大きな声が響いた。帽子を脱ぎ、深々とお辞儀をする球児たち。厚木市と宮城県多賀城市、遠い距離を超えた少年野球チームの親善試合が始まった。

きっかけは、東日本大震災で被災した多賀城市に対する、厚木市少年野球協会による支援だった。たくさんの子どものための野球用具が津波で流されたことを知った協会は、昨年4月にグローブやバットなど約130点を集めて寄付した。それから半年。「寄付だけでなく交流を通して支援を続けよう」と、協会は市内企業の協力を得て、多賀城市の少年野球チームを毎年厚木に招待することに決めた。

ことしの夏、初めて厚木に来た野球チームは「浮島サザンカジュニアーズ」。選手や監督、保護者など、総勢37人が厚木市最大の祭り「あつぎ鮎まつり」の開催に合わせ招かれた。子どもたちは、祭り独特の高揚感に包まれながら、パレードや夏の夜空を彩った1万発の花火などを思い思いに楽しんだ。

翌日に行われた親善試合。青空の下で、厚木と多賀城の野球少年たちは、ほとぼしる汗を拭うこともなく全力で白球を追った。普段一緒にプレーすることのない相手との対戦を心待ちにしていた子どもたち。その表情は、純粹に野球をすることの楽しさ、喜びに満ちあふれていた。

震災や野球を通じ、成長していく球児たちの夏を追った（2・3・4面に続く）。

目次	2~4面	野球がつかないだ交流	5~7面	ふるさとの芸能	8面	つなげよう命のリレー	9面	地域包括支援センター	10・11面	タウンガイド
		被災した球児たちへの支援から始まった厚木と多賀城の野球を通じた交流を紹介します。		古くから地域に伝わる郷土芸能。相模人形芝居・長谷座の活動を追いました。		緊急時に現場で活躍する救急救命士の活動を通じ、命のリレーの大切さを考えます。		地域の高齢者を支える「地域包括支援センター」の取り組みを紹介します。		講座・催し・募集・子育て・など、暮らしに役立つ便利な情報を満載。

こちらから

特集 野球がつないだ交流

厚木 ↔ 多賀城

野球少年たちの夏

「野球」と「支援」。2つのキーワードがこの夏、面識のない厚木と多賀城の子どもたちを結び付けた。被災地でひたむきに野球に向かう少年たちと、遠く離れた地から彼らを支援した人々。野球を通じた心温まる交流は、子どもたちにとって掛け替えのない経験となった。



巨大な津波が多賀城市の沿岸部をのみ込んだ

「何がなんだか分からなかった」「信じられない大きな揺れだった」「無残な姿になった家を見て、頭の中が真っ白になった」
 東日本大震災。マグニチュード9.0の巨大エネルギーは東日本沿岸に想像を絶する波を運び、数多くの被害をもたらした。誰もが信じられない、信じたくない現実だった。
 宮城県多賀城市。宮城県のほぼ中央に位置し、人口約6万2千人を抱える地方都市だ。かつては陸奥国の国府が置かれ、今も城跡が残る。東北地方最大の都市、仙台市に隣接していることからベッドタウンとしての色合いも濃

く、市内には閑静な住宅街が広がっている。
 昨年3月11日、巨大津波は海沿いの多賀城市にも猛然と襲い掛かった。市内のおよそ3割が浸水。150人の市民が尊い命を落とし、1万を超える住宅が被害を受けた（平成24年4月30日現在）。

野球ができない日々

「これからどうすればいいんだろう」。震災の翌日、多賀城市の少年野球チーム「東小イーグルス」に所属する平山聡一郎くん（13）は、途方に暮れていた。混乱のまま、避難所で一夜を過ごした震災当日。夜が明けて向かった自宅は、すでに変わり果てた姿になっていた。小学1年から野球に打ち込んできた少年の最も大切なグローブは泥にまみれ、もはや使い物にはならなかった。

「野球をしている場合じゃないことは分かっていたけど、それでもショックだった。他の野球用具も全て駄目になり、いつになったら野球ができるんだろう」と思った。平山くんは仮住まいが見つかるまでの約2週間、不安を抱えたまま近くの中学校で家族と共に避難所生活を送った。

チームの練習場だった小学校のグラウンドは、その避難所の駐車場になった。結局、5月上旬まで練習を再開することはできなかった。

目に見える支援がしたい

「何か形にできる支援はないか」。厚木市少年野球協会の木村淳さん（49・妻田東）は、震災直後から考えていた。4月上旬、多賀城市の「浮島サザンカジュニアーズ」（以下、サザンカ）とい



厚木市少年野球協会の木村さん

う少年野球チームのホームページが木村さんの目に留まった。「子どもたちのために野球用具の寄贈を」と、そこには記されていた。

木村さんと協会の役員らは、すぐに用具集めに奔走。厚木市内に8つある少年野球チームに、まだ使える用具の寄付を募った。バットやグローブ、スパイク、ボールなど、各チームや球児たちの家庭から予想をはるかに超える野球用具が集まった。

「それだけ支援したいという人が多くいることに感激した」。木村さんは、サザンカと連絡を取り合いながら、4月下旬に野球用具一式を送った。

子どもたちのために

サザンカの選手たちが住む地域は、津波による被害を受けなかった。激しい揺れによる家屋の損壊や電気・水道などライフラインの断絶による影響はあったものの、避難所生活を送る選手はいなかった。

被害が少なかったサザンカは、被災者を支援する側に回った。スパーの前に選手やコーチ、保護者などが立ち、2週間にわたって募金活動を実施。集まった募金は、被災した他のチームのストッキングやアンダーシャツなどに充てられた。

当時、チームのコーチ兼事務局長を務めていた稲部一高さん（43）。「受け入れ先があるか分からなかったが、少し



写真右上=サザンカの選手たちは募金活動などで被災したチームを支援
写真上=厚木市少年野球協会から寄贈された用具一式。使用したものだけでなく、購入したものも含まれている
写真右下=用具が入った段ボールに集まる東小イーグルスの選手たち
写真左=寄贈されたグローブを手取る平山くん。中学に進んでも野球に打ち込む日々を送っている



でも子どもたちのためになれば」と、サザンカのホームページで野球用具の寄付を募った。全国から寄せられた用具は、多賀城市にとどまらず宮城県内の少年野球チームに渡った。

宝物のグローブ

5月下旬、東小イーグルスの練習場に、厚木から寄贈された野球用具一式が届いた。4月からキャプテンを任されていた平山くんは、仲間と共に段ボールに駆け寄り、数ある中から一つのグローブを手にとった。「これからは、このグローブで練習ができるんだ。それまで借り物で練習していた平山くんは、ようやく自分だけの用具が手に入った瞬間だった。

「これは、僕の宝物なんです」。1年半が経過した今、平山くんはグローブをいとおしそつに見つめながら話す。「震災を経たこと、キャプテンになったことで野球に対する姿勢が変わった。たくさんの方の支援を受けて、人と人がつながることの大切さが身に染みて分

かった」。震災という逆境にくじけることなく、そこから学んだことを野球に生かした平山くん。その目は力強く、澄み切っていた。

厚木に野球少年がやって来た

8月3日。多賀城市からサザンカの子どもたちが、はるばる厚木にやって来た。厚木市少年野球協会に所属する市内8つの少年野球チームの選手たちが、市役所で彼らを出迎えた。到着した子どもたちは長旅の疲れも見せず、初めて見る街の風景に興味津々の様子だった。

歓迎会で、同協会の斎藤仁礼会長は「子ども同士が交流する場を持てればと企画した。厚木でのひとときを良い思い出にしてください」とあいさつ。サザンカのキャプテン、後藤聖也くん(12)は「花火と祭りが楽しみ」と目を輝かせた。

歓迎会には、選手や保護者のほか両市の少年野球の関係者も参加。約2時間にわたり親睦を深めた。

多賀城の今

多賀城市
震災復興推進局長
鈴木学さん(52)



多賀城市はごく一部、それも工場の敷地しか海に面していません。日常生活で海が目に入らないため、多くの市民は津波が来ると意識がそれほどなかったのではないのでしょうか。

復興は進んでいますが、まだまだ時間がかかります。今も、仮設住宅と借り上げた民間の賃貸住宅には約1,700世帯が住んでいます。その方たちのための「災害公営住宅」と、次また大きな津波が来ても被害を最小限に食い止めるための防潮壁の設計に入っています。企業のダメージも大きく、雇用の問題は深刻です。

歴史的な大災害からまだ1年半だというのに、風化しつつあると感じることがあります。後世に震災を伝え続けていくことが、震災を経験した私たちの役目だと思っています。



鮎まつりのオープニングパレードに参加するサザンカの選手たち

あつぎ鮎まつりを満喫

8月4日。厚木の市街地は「あつぎ鮎まつり」でにぎわっていた。2年振りに夏の夜空に花火が打ち上がるということもあり、市内外からたくさんの人出があった。

サザンカの子どもたちは、ユニホーム姿でオープニングパレードに参加。「がんばれよー」と沿道から声援が飛ぶと、照れながらも帽子を振って応えていた。パレードが終わると子どもたちだけで屋台に繰り出し、かき氷やヨーヨー釣りなど祭りならではの楽しみを満喫していた。

日が沈むころ、花火が上がり始めた。「っわー、きれい」「近くて体に当たりそう」「音の迫力がすごい」。鮮やかな光に照らされながら、球児たちは興奮気味に夜空を見上げていた。「去年の夏は花火どころではなかった。きれいな花火を見ることができて本当に良かった」。一緒に鑑賞していた保護者の一人は、しみじみとそう話した。

(4面に続く)

特集 野球がつないだ交流



写真右上＝野球の話ですぐに打ち解けた三田フレンズの笹生くん（左）とサザンカの後藤くん
写真中央上＝屋台を楽しむサザンカの選手たち
写真左上＝迫力ある花火を間近で鑑賞
写真右下＝親善試合で交流を深めた両市の子もたち。試合後、集合して健闘をたたえ合った
写真左下＝夜空に打ち上がった花火が選手たちの顔を鮮やかに染める



白熱した親善試合

8月5日、整備の行き届いた神奈川県工科大学のグラウンドで、両市の少年野球チームの親善試合が実施された。多賀城代表のサザンカに対し、厚木チームの選手は、市内の少年野球チームから選抜された。

多くの観客が見守る中で2試合が行われ、1試合目は6対6の引き分け。2試合目は7点差をつけられながらも驚異的な粘りを見せたサザンカが12対9で逆転勝利した。白熱した好ゲームに、場内は大きな拍手と歓声で沸いた。サザンカの後藤くんは、「厚木チームは強かったけど、最後まで諦めないという気持ちで戦った」とゲームを振り返った。厚木チームで2試合目のキャプテンを務めた「厚木ニューウエーブ」の大原豪史くん(12)は、「負けたのは残念だけど、なかなか試合ができない相手と野球ができてうれしかったと、すがすがしい表情で話した。」

震災の経験を伝えた夜

親善試合を終えたサザンカの選手たちは、三々五々に散っていった。厚木での最後の夜は、この日試合をした厚木の球児の家にホームステイすることになっていったからだ。

サザンカの後藤くんは「三田フレンズ」のキャプテン、笹生啓太くん(12)の家に泊まることになった。庭でバーベキューをしながら、親善試合の感想や好きなプロ野球チームなど、いろいろな話をした。お互いを全く知らない2人だったが、野球という共通項が少年たちの距離を近づけていた。

「地震はどんな感じだったの」。話が東日本大震災に及んだ。後藤くんは、約1カ月水が出なくて困ったこと、

厚木と多賀城の交流を番組で紹介

「野球少年日記」
～震災を通じて培った友情～

《放送日》9月1日～10日

多賀城市の野球少年が厚木にやって来た。彼らに密着し、野球を通じた厚木の子もたちとの爽やかな交流を紹介します。

時間などの詳細は、10面の番組ガイドをご覧ください。

あつぎ 元気Wave CATV9/1～放送

チームメイトと募金活動をしたこと、野球場に仮設住宅が建てられ使えなくなってしまうことなど、震災での体験を語り始めた。初めて聞く被災地からの生の声を、笹生くんは真剣な表情で聞いていた。子どもから子どもに、直接震災の体験が伝えられた。

翌朝、別れの時。厚木の少年野球チームを代表し、笹生くんが多賀城の球児たちにメッセージを送った。交流したこと楽しさや感謝を述べた後、野球少年らしい爽やかな一言で、それは締めくくられた。

「多賀城のみんな、この次は甲子園で会おう」

「大変な経験をしたと思うが、明るい子ばかりで良かった」。厚木市少年野球協会の木村さんは振り返る。「交流を通じて、相手の身になって考えることの大切さが分かる子に育ってほしい」と、両市の球児たちの成長を願った。

普段、全く異なる土地でそれぞれの生活を送っている厚木と多賀城の子もたち。置かれた環境や経験したことは違っても、野球に対する姿勢や思いは同じだった。甲子園に行きたい。プロになりたい。純粋な心を持った野球少年たちは、遠く離れていても同じ夢を追い続けている。

特集 ふるさとの芸能

受け継がれる、郷土の誇り。



一輪の朝顔が描かれた思い出の扇子を手に、離れ離れになってしまった恋人のことを思う。すれ違う男女の悲恋を描いた演目、「生写朝顔話」の一場面だ。人形を操る3人の黒子は、頭の傾きや姿勢で、男性をいわずに思い続ける女性の心情を巧みに表現していく。

演じるのは、相模人形芝居・長谷座。国指定の重要無形民俗文化財として、市内の長谷地区に伝わる伝統を大切に守り続けている。

市内には、数多くの郷土芸能が存在する。時代の波にもまれながら少しずつ形を変え、受け継がれてきた誇りを明日へとつないでいる。

《6・7面に続く》

◆相模人形芝居◆ 1体の人形を3人で操る「三人遣い」と、鉄砲を構えたような姿で操る「鉄砲ざし」と呼ばれる独特の操法が特徴の人形芝居。市内では、長谷座と林座が国の重要無形民俗文化財に指定されている

郷土芸能まつり

地域に受け継がれている、伝統芸能の魅力に触れてみませんか。

◆相模人形芝居特別公演

日時 10月7日、13時30分～

出演 相模人形芝居 長谷座・林座、人形浄瑠璃 あつぎひがし座、玉川中学校（特別出演）

◆郷土芸能発表会

日時 11月11日、13時30分～

出演 ささら踊り盆唄保存会(愛甲・長谷)、相模里神楽垣澤社中、厚木市古式消防保存会、法雲寺酒井双盤講、伊勢十二座太神楽獅子舞保存会ほか

いずれも会場は、文化会館。Ⓜ当日直接会場へ。無料。

☎文化財保護課 ☎225局2509



あつぎの郷土芸能

- ①相模里神楽垣澤社中／古代日本の神話を題材に演じられる神楽。神社の祭礼などを中心に公演している
- ②伊勢十二座太神楽獅子舞／正月から家々を回り、おはらいや曲芸などを披露する民俗芸能
- ③古式消防／とび職に携わる人たちによって受け継がれている。消防出初め式では、はしご乗りを披露
- ④ささら踊り盆唄／愛甲地区と長谷地区に伝わる、県指定の無形民俗文化財。竹で作った「ささら」を持ち、太鼓と唄に合わせて踊る
- ⑤法雲寺酒井双盤講／かねと太鼓を打ちながら念仏を唱える、市指定の無形民俗文化財。



特集 ふるさとの芸能

地域の伝統は私たちが守る

怒り、悲しみ、喜び。3人の遣い手が操る人形は、目線や姿勢、手先の細やかな動きで場面に応じた心の動きを表現していく。「長谷座」は、国指定の重要無形民俗文化財として、伝統を大切に守り続けている。移りゆく時代の中で、後継者不足などの問題を抱えつつも、300年に及ぶ伝承を絶やさないで奮闘する座員たちの姿を追った。

相模人形芝居「長谷座」



あつぎの 人形芝居の歴史

- ◆約300年前
淡路（兵庫県）の人形遣いが伝えたといわれる。
※長谷地区の壇神社に淡路の「翁面」が奉納されている（下の写真）
- ◆嘉永4年（1851年）
江戸の人形遣い「西川伊三郎」が操法などを指導
- ◆昭和28年
県の無形民俗文化財に指定（長谷座・林座）
- ◆昭和45年
国の重要無形民俗文化財に選択（長谷座・林座）
- ◆昭和55年
国の重要無形民俗文化財に指定（長谷座・林座）



「人形をもっと高く上げましょー」、「目線には気を付けてね」。南毛利学習支援センターの一室に、声を掛け合い基本動作の練習に打ち込む長谷座の座員たちの姿があった。重さ7キログラムほどの人形を抱えた座員たちは、額にうっすらと汗を浮かべ、ラジカセから流れてくる三味線と義太夫節に合わせて一心に人形を操っている。座員たちが集まれるのは、月に3回ほど。1回当たりの練習時間は、6時間にも及ぶ。

「経験の浅い座員が多いので、お客さんの前で多く演じることが一番の練習になる」と話すのは山口朋彦さん（64・長谷）。平成13年に座員となり、現在座長を務めている。

公演は年間15回程度で、地域の祭りや小中学校、文化会館などで演じる。現在の座員数は20人。その多くは、市が実施した後継者育成講座の出身者だ。

訪れた伝統の危機

地域に伝わる郷土芸能の多くは、後継者不足という共通の問題を抱えている。受け継ぐ者がいなくなり、伝承が途絶えてしまったケースも少なくない。かつては市内にも人形を扱う団体が複数あり、神社の祭りなどで盛んに演じられていたといわれている。

長谷地区での人形芝居は、地域の農家を中心に代々受け継がれてきた。しかし、社会の変化で市外へと勤めに出る人が増えるにつれ、次第に人形芝居の担い手は減少。平成13年の時点では5人となっていた。長谷座で顧問を務める山口朋彦さん（78・長谷）は「座員が減ることで、演目も限られてくる。これ以上続けていけないと、危機感を覚えた」と当時を振り返る。

忘れられない言葉

山口座長には、決して忘れられない言葉がある。「長谷座の芝居は変わってしまった」。それは経験の浅い座員だけで臨んだ公演の後、耳に届いてきた言葉だった。一気に新しい座員が増え、技術の継承が追い付いていなかった長谷座。魅力ある芝居を演じられていない現状が、浮き彫りになっていた。

「悔しかった。今まで長谷座を守ってきた人たちのためにも、このままではいけないと強く感じた」。この日を境に、座員たちの新たな挑戦が始まった。「長谷座伝統の、写実的に心理描写を表現する芝居を取り戻すには何かが必要か」。考え抜いた末に座員たちが出した答えは、自分たちの芝居を「一から見直すこと」だった。指導者を探し、基礎から学び直す試みが始まった。

決意を胸に新たな出発

「はい、ストップ。動きの二つ一つに意味を持たせることを意識して、もう一度やりましょー」。身振り手振りを交えながら指導に当たるのは、西川古柳さん（69）。国の選択無形民俗文化財「八王子車人形」の五代目家元として国内外で活躍する、人形遣いの第一人者だ。

西川さんが長谷座の指導を始めたのは7年前。人形芝居の基本を教えたほしいという長谷座の申し出を快く引き受けた。普段は一人で人形を操っているけれど、基本的な動きであれば教える



壇神社にある長谷座の記念碑

郷土芸能は地域で育む

私が人形芝居を始めたのは20歳の頃でした。当時、人形芝居を始めることは、大人として地域の仲間入りをする大切なきっかけでした。座の一員になることで、地域の人たちはもとより、公演を通して市外の人たちとも交流の輪が広がっていきました。

伝統が途絶えてしまうという危機感を覚えたこともあります。今のメンバーたちが座員に加わってくれた時は、本当にうれしかった。私の代で伝統の灯を絶やさないで済むと思いました。

国指定の郷土芸能があることは、地域の誇りです。受け継いでいくためには、座員だけでなく地域全体で盛り立てていくことが大切です。郷土芸能は、地域の中で育んでいくものですから。



長谷座 顧問 山口朋彦さん

長い歴史を持つ貴重な郷土芸能を守るため、市では平成16年から後継者を育成する講座を開始。長谷座、林座のメンバーが講師を務め、市内外から5年間で69人が受講した。講座を受け長谷座の座員となった早川幸秀さん（49・中町）は「郷土芸能には昔から関心があった。後世に引き継ぐ一翼を担いたい」と精力的に活動を続けている。

大切にしていくのは、人形芝居の所作を確実に身に付けさせること。「基礎を固めて、少しでも早く自立してほしい。郷土芸能は、自立して地域独自の色を出してこそ続いていくものだから」と、実演を交え繰り返し基本を教え込んでいる。

山口座長は「後継者にしっかりとした形で引き継ぐためにも、もっと上達したい。芝居に磨きがかかってきたという声も聞くようになったと、手応えを感じている」。

後世に引き継ぐ思い

「だいぶ良くなってきたね」「本番まで時間がないから、自分のパートはしっかりと覚えておくように」。玉川中学校の教室に、はつらつとした声が飛び交う。長谷座では、7年ほど前から郷

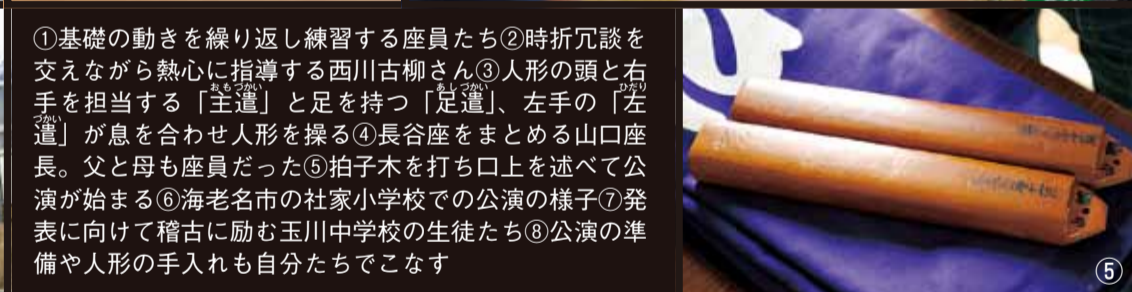
第40回 相模人形芝居大会



相模人形芝居を受け継ぐ、県内5座が厚木に集結します。

- 日時 平成25年2月17日、12時開演
会場 文化会館
出演 長谷座・林座（厚木市）
下中座（小田原市）
足柄座（南足柄市）
前鳥座（平塚市）
阿波人形浄瑠璃 平成座（徳島県）

文化財保護課 ☎25局2509



①基礎の動きを繰り返し練習する座員たち②時折冗談を交えながら熱心に指導する西川古柳さん③人形の頭と右手を担当する「主遣」と足を持つ「足遣」、左手の「左遣」が息を合わせ人形を操る④長谷座をまとめる山口座長。父と母も座員だった⑤拍子木を打ち口上を述べて公演が始まる⑥海老名市の社家小学校での公演の様子⑦発表に向けて稽古に励む玉川中学校の生徒たち⑧公演の準備や人形の手入れも自分たちでこなす

トピック 救急

9月9日は「救急の日」

みんなであつなげる命のリレー

緊急時に現場に駆け付け活動する救急隊。中でも大きな事故や病気のあるときには、医療行為ができる救急救命士の活躍が頼りになります。救急車の到着まで約8分。その間の応急手当でも生存率を高めるために重要です。一人一人が協力し合い、大切な命を守りましょう。

「救急指令、救急指令...」。消防署内に放送が流れると、救急隊員たちは一斉に席を立ちます。素早く感染予防服に身を包むと救急車に乗車。すぐにサイレンを鳴らして、現場へと出動していきます。

救命処置の向上を目指して

現在、救急救命士は42人。昼夜を問わず業務に従事しています。「一つとして同じ現場はない。どんな状況でも適切な判断ができるよう、日々訓練を積んでいる」と松谷さんは話します。

9月1日から「救急救命士の処置範

囲拡大に係る実証研究」(右下参照)が始まりました。救急救命士の医療行為の範囲を広げること、より効果的な救命活動が期待されます。

応急手当が重要

救急救命士の医療行為の範囲が広がっても、通報者などの応急手当が重要であることに変わりはありません。その場に居合わせた人が適切な処置をし、救急救命士につなぐ「救命の連鎖」が生産率を高めます。

市では随時「応急手当講習会」を開催しています。心肺蘇生をはじめ、AED(自動体外式除細動器)の使用方法や大出血時の止血法などを学ぶこと

処置範囲拡大に係る実証研究

厚木市が加盟する湘南地区メディカルコントロール協議会では救急救命士の医療行為拡大の実現に向け、一時的に医療行為を拡大し、その効果や安全性を検証します。

《可能になる医療行為》

- ◎低血糖による意識障害の可能性がある患者に対する血糖測定とブドウ糖溶液の投与。
- ◎ぜんそく患者の重症ぜんそく発作時に患者が所持する吸入薬の使用。
- ◎心肺停止の恐れがあるショック状態の患者に対する点滴の実施。

【実証研究期間】9月1日～平成25年1月31日

「緊急時はためらわずに通報を」意識がない、またはもつろうとしているような場合は、重大な病気やけがの可能性があります。ためらわずに119番通報をしてください。救急車を要請するか判断に迷うときは「あつぎ健康相談ダイヤル24」(10面参照)を利用しましょう。

9月9日は「救急の日」。一人一人が協力し合い、「救命の連鎖」をつなげ、安心して暮らせるまちにしましょう。

◎救急救命課 ☎23局9365



救急指令が入るとすぐに現場に向かう救急救命士たち

市議会正副議長が決定

議長 神子 雅人氏
副議長 寺岡まゆみ氏



神子雅人氏



寺岡まゆみ氏

8月10日の市議会第1回臨時会で、議長に神子雅人氏(あつぎみらい)、副議長に寺岡まゆみ氏(公明党厚木市議員団)が選出されました。

神子氏は、副議長をはじめ、環境教育常任委員会委員長、議会運営委員会委員長などを歴任。3期目。48歳。戸田在住。

寺岡氏は、総務企画常任委員会委員長をはじめ、市民福祉常任委員会委員長、決算特別委員会委員長などを歴任。3期目。54歳。戸室在住。

◎議会総務課 ☎225局2700

ひとまち元気



立地企業代表者、県知事との合同記者会見

厚市長 小林常良

昨年の東日本大震災が引き起こした電力不足は、私たちの生活を一変させました。誰もが原子力に頼らない電力の必要性を実感したのではないのでしょうか。安全な電力源の確保が急務だと感じた私は、大規模な太陽光発電施設(メガソーラー)を早急に誘致する必要があると決意し、実現に向けて準備を進めてきました。

県や地権者、事業者の方などと粘り強く交渉や調整を続けた結果、7月に上古沢の旧採石場に発電事業者として、市内企業の立地が決定しました。民間事業者によるメガソーラーの立地は県内初。事業者の方は、採算性よりも電力の地産地消と地域活性化への熱い思いを持って事業に参入していただきます。

厚木市には、メガソーラー以外にも電気自動車や太陽光を研究する企業が数多く立地しています。環境先進都市としての厚木市をPRするとともに、環境の面からも皆さんの安心・安全を支えていきたいと思えます。

高齢者の充実した毎日をサポート 地域包括支援センターに相談を

トピックス

高齢福祉

「地域包括支援センター」は、日常生活で生じる高齢者の皆さんの相談に乗り、自立した生活をサポートする施設です。日ごろの悩みや健康に対する不安など、いつでも気軽に相談しましょう。



定期的に地域の高齢者を訪問し、健康を支えている松田さん

平成25年には、国民の4人に1人が65歳以上という時代を迎えます。市内における23年の高齢者人口はおよそ4万1千人。年々増加しています。市では高齢者の皆さんが快適で充実した生活を送ることができるよう、市内8カ所（下表参照）に、地域包括支援センターを設置しています。

身近な場所で相談を受け付け

センターは、地域に住む高齢者をサポートする公的な相談窓口です。日常生活で生じるさまざまな悩みや健康、介護に対する不安などの相談を受け、解決に向けた援助や支援を実施します。

運営は、市から委託を受けた病院や老人ホームなどが実施。高齢者の皆さんが、身近な場所でいつでも気軽に相談できるように努めています。

専門職がサポート

寄せられる相談は、介護から生活に関する事まで多岐にわたります。その

ため、センターには専門職を配置。相談に応じるのは、地域のケアマネジャーをまとめる「主任ケアマネジャー」、介護予防のプランを作る「保健師」、成年後見制度の活用などの相談に乗る「社会福祉士」たちです。配置された職員同士が職種を超えた連携を取ること、総合的なサポートが可能となり、よりきめ細かな支援を展開しています。

相談を受けた職員は、必要に応じて自宅を訪問。家庭の状況や生活環境などを把握し、相談者に適した支援をしていきます。必要な支援の程度に応じて、適切な介護サービス提案し、成年後見制度の紹介や消費者被害などへの対応を実施しています。

3年前からセンターを利用している林淑子さん（75・山際）は「職員の方が親切でとても助かっている。1人で悩まずに、早めに相談することが健康にもつながっているみたい」と笑顔を見せます。

予防へのアプローチ

センターの大きな役割の一つは、できる限り介護が必要な状態とならないよう、予防の取り組みを支援することです。できることは維持し、できないことも少しずつできるようにサポートします。要支援の認定を受けた方などには職員が定期的に自宅に出向き、利用者の健康状態に合わせた継続的な支援を続けています。

介護保険サービスを利用していない方に対しても、体操教室をはじめ健康相談、ティーサロンなど、各センターが地域の特色を生かした催しを企画・開催しています。

近くのセンターを確認

23年に市が実施した調査では「センターを知らない」と回答した高齢者が62.6%と、半数以上に上りました。

センターで社会福祉士として働く松田夏奈さんは「特に40歳代から60歳代の方にセンターを周知するきっかけがないのが課題。センターを知らずに家族だけで頑張ってしまう、必要な介護サービスが受けられない状況を避けた」と話します。

地域で支える環境づくり

充実した支援を実施していくためには、地域の実情を細かく知ることが必要です。センターは、地域の医療機関や民生委員などと連携して状況を把握し、地域の特性に合わせた支援の充実に努めています。

高齢者の皆さんが住み慣れた地域でいつまでも元気に、生きがいを持って生活できるよう、市では地域と一体となって支え合う環境づくりを進めています。

☎高齢福祉課 ☎225局2220

『安心安全都市』の新たな挑戦②

安心・安全セーフコミュニティ推進地区の指定

市では市内23地区を推進地区に指定し、安心安全を守る活動を推進しています。セーフコミュニティの認証取得後、さらなる安心安全の取り組みを充実させるため「セーフコミュニティモデル地区」と「防犯モデル地区」を統合し、推進地区としました。推進地区では防犯パトロールや啓発活動などを展開し、地域の安心安全を守っています。



市内全ての推進地区が集まった指定式の様子

☎暮らし安全課 ☎225局2148

このコーナーでは、セーフコミュニティ認証後も続いている市や地域の安心安全への取り組みを紹介します。

地域包括支援センター 一覧

地域	電話番号	主な担当地区
厚木	297局2970	松枝・元町・東町・寿町・水引・厚木町・中町・栄町・田村町・幸町・泉町・吾妻町・旭町・南町・船子の一部・岡田団地
依知	246局0108	上依知・猿ヶ島・山際・関口・中依知・下依知・金田
睦合	297局7338	下川入・棚沢・三田・三田南・林・妻田・王子1丁目など
荻野	241局5780	上荻野・まつかげ台・みはる野・中荻野・下荻野・鳶尾
小鮎・緑ヶ丘	080・5521・8314	飯山・上古沢・下古沢・宮の里・緑ヶ丘・王子2～3丁目
玉川	250局9091	七沢・小野・岡津古久・森の里・愛名・毛利台
南毛利	226局1108	戸室・恩名・温水・温水西・長谷・船子
相川	220局0643	酒井・戸田・長沼・下津古久・上落合・愛甲・岡田

あつぎ観光ボランティア協会 会員養成講座

10月11日～平成25年4月4日(全8回)。郷土資料館ほか。ハイキングや史跡探訪のガイド、文化財の説明要員などを養成する講座。市内在住で20歳以上の方30人。無料。☎電話またはファクス、Eメールにて住所、氏名(ふりがな)、電話番号、年齢、Eメールアドレスを書き、9月15日までに東丹沢七沢観光案内所 ☎248局1102・☎248局1103・e-mail=atsugi-kankou@ai.ayu.ne.jpへ。抽選。

TOEIC講座

10月14・21・28日、11月11・18・25日、12月2・9・16日(全9回)。13時～16時30分。勤労福祉センター。市内在住在勤在学で18歳以上の方5人。17,300円。☎電話またはファクスにて住所、氏名、年齢、電話番号を書き、9月17日までに勤労者福祉サービスセンター ☎225局2547・☎227局5405へ。抽選。ウェブ申 ☎120365

中高年のための再就職支援講座

◆応募書類対策セミナー 9月25日、10時～12時30分。市役所第2庁舎。履歴書や職務経歴などの書き方と基本マナーを学ぶ。◆面接対策セミナー 9月25日、13時30分～16時30分。市役所第2庁舎。面接の重要ポイントと基本マナーを習得し、模擬面接で課題を発見する。

いずれも対象は、40歳以上の方30人。無料。☎電話またはハガキ、ファクスに講座名、日時、住所、氏名(ふりがな)、年齢、電話番号を書き、9月18日(必着)までに〒220-0004横浜市西区北幸1-11-15横浜STビル5F シニア・ジョブスタイル・かながわセミナー係 ☎0120-945局033・☎0120-085局4114へ。抽選。

◆面接対策セミナー 9月25日、13時30分～16時30分。市役所第2庁舎。面接の重要ポイントと基本マナーを習得し、模擬面接で課題を発見する。いずれも対象は、40歳以上の方30人。無料。☎電話またはハガキ、ファクスに講座名、日時、住所、氏名(ふりがな)、年齢、電話番号を書き、9月18日(必着)までに〒220-0004横浜市西区北幸1-11-15横浜STビル5F シニア・ジョブスタイル・かながわセミナー係 ☎0120-945局033・☎0120-085局4114へ。抽選。

中期労働講座

10月9・12・16・19・23・26・31日、11月1日(全8回)。18時30分～20時30分。勤労福祉センター。労働法の基礎を学ぶ。定員40人。3,800円。☎10月2日までにかながわ労働

働センター県央支所 ☎296局7311へ。申し込み順。

わくわくおでかけひろば

①9月20日、10時30分～11時30分。山際児童館(山際180)②10月17日、10時30分～11時30分。妻田児童館(妻田西1-17-33)。簡単にできる手遊びや、クラフト作り。未就学児とその保護者。無料。☎当日直接会場へ。☎青少年課 ☎225局2580。

「市道路構造の技術的基準等を定める条例」意見交換会

9月20日、19時～20時30分。市役所第2庁舎。☎当日直接会場へ。☎道路管理課 ☎225局2300。

(仮称)あつぎ元気館など、公共施設の在り方に関する意見交換会

9月8日、10時～11時30分。市役所本庁舎。☎当日直接会場へ。☎企画政策課 ☎225局2450。

認知症対応型共同生活介護事業者を募集

《募集サービス》認知症対応型共同生活介護サービス《募集地域》厚木北部18床(2ユニット)、厚木南部18床(2ユニット)《募集期間》10月1日～11月30日。☎直接または電話で介護保険課 ☎225局2240へ。

臨時職員(保健師)を募集

《職種》保健師1人《業務内容》保健指導・健康相談、メンタルヘルス相談など。応募資格などの詳細は、健康づくり課 ☎225局2201へ。

文化会館4階飲食スペースの運営に係る現地説明会

調理場付き飲食スペースの運営者募集に伴う説明会を実施します。《現地説明会》10月4日、14時～。☎9月24日までに生涯学習課 ☎225局2510へ。

都市再生整備計画 評価委員会の委員を募集

《応募資格》①市内在住在勤在学で応募日現在18歳以上②平日昼間の会議(年2回程度)に出席できる③他の付属機関などの委員でない④市の議員・職員でない⑤の全てを満たす方1人《任期》平成

あつぎ元気 Wave 9月の広報番組ガイド 9月1日～10日 ◆野球少年日記 被災地支援と野球への思いがけない球児たちの交流を紹介。 9月11日～20日 ◆郷土の誇り「相模人形芝居」 国の重要無形民俗文化財に指定される林座の活動を紹介します。 番組はホームページ動画配信 あつぎ元気Wave 検索 CATV放送開始後に配信

25年3月31日まで《報酬》1日7,800円(交通費含む)。☎申込書(市ホームページからダウンロード可)に必要事項と応募の動機(400字程度)を書き、直接または郵送、Eメールで9月30日(必着)までに〒243-8511企画政策課 ☎225局2450・e-mail=1100@city.atsugi.kanagawa.jpへ。

市民の皆さんから意見を募集

◆(仮称)文化芸術振興条例骨子 ☎〒243-8511生涯学習課 ☎225局2510・☎225局4612・e-mail=0350@city.atsugi.kanagawa.jp

◆市営住宅条例改正骨子 ☎〒243-8511住宅課 ☎225局2346・☎224局0621・e-mail=5550@city.atsugi.kanagawa.jp

◆(仮称)指定地域密着型サービス事業者等の指定に関する条例骨子 ☎〒243-8511介護保険課 ☎225局2240・☎224局4599・e-mail=2230@city.atsugi.kanagawa.jp

◆下水道条例改正〈意向調査〉 ☎〒243-8511下水道総務課 ☎225局2362・☎222局8749・e-mail=5200@city.atsugi.kanagawa.jp

◆(仮称)準用河川に係る河川管理施設等の構造に関する条例〈意向調査〉 ☎〒243-8511河川ふれあい課 ☎225局2380・☎225局3027・e-mail=5500@city.atsugi.kanagawa.jp

◆都市公園条例改正〈意向調査〉 ☎〒243-8511公園緑地課 ☎225局2412・☎225局3027・e-mail=4800@city.atsugi.kanagawa.jp

いずれも閲覧期間は、9月1日から10月1日。閲覧場所は、各問い合わせ窓口、市政情報コーナー、公民館、本厚木駅・愛甲石田駅連絡所、総合福祉センター、中央図書館、市ホームページ。応募資格

は、市内在住在勤在学の方または市内で活動する個人・法人・団体。応募は10月1日(消印有効)までに閲覧場所にある応募用紙を備え付けの「わたしの提案」箱に投函するか、直接または郵送、ファクス、Eメールで各問い合わせ先へ。

9月10日は「屋外広告の日」

屋外に設置されている広告物には、掲出位置や形状などのルールがあります。設置するには許可が必要です。ルールを守ってきれいなまちをつくりましょう。☎都市計画課 ☎225局2400。

9月10日は世界自殺予防デー

9月10日～16日は自殺予防週間です。うつ病など「心の健康」が原因の自殺は、誰もが抱え得る深刻な問題です。早めに気付いて対応することが大切です。☎健康づくり課 ☎225局2201。

国民健康保険被保険者証の更新

10月の更新に伴い、9月8日から簡易書留で郵送します。保管期間満了で未受領の方は、10月1日以降に運転免許証などを持ち国保年金課で受け取るか、お問い合わせください。社会保険などに加入した場合は脱退の届け出が必要です。☎国保年金課 ☎225局2122。

土曜日閉庁のお知らせ 9月22日の市民課、国保年金課窓口の土曜日閉庁(8時30分～正午)は祝日のため実施しません。☎行政経営課 ☎225局2280。

あつぎ健康相談ダイヤル24 健康相談・医療機関情報(救急含む) さわやか1番 よいこころ ☎0120-31-4156 ◎発信者番号は通知設定でおかけください

相模大橋(県道40号)の夜間通行止め 9月27・28日 0時～5時 《迂回先》新相模大橋(国道246号)、戸沢橋(県道22号横浜伊勢原)へ迂回をお願いいたします。☎中日本高速道路厚木工事事務所 ☎223局8721・三井住友建設 ☎236局6540。

「こころ」の健康づくりを支援します ストレスの多い現代、うつ病などの心の病気は、誰でもかかる可能性があります。「こころ」のサインをチェックして、適切に対応しましょう。 ◆こころの体温計 ストレスをパソコンや携帯でチェックできるシステム「こころの体温計」で、現在の心の状態を手軽にチェックしてみませんか? ◆こころの健康相談 心に抱える問題の解決に向け、臨床心理士が相談(50分間の面接・電話相談)に応じます。《日時》①9月5日②24日③10月3日④15日。①③=13時～16時、②④=9時～12時。《場所》市役所本庁舎1階 総合相談コーナー 《対象》市内在住の方(家族なども可) ☎健康づくり課 ☎225局2201へ。申し込み順。

タウンガイド

至 秦野 至 平塚

9月							10月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
						1	1	2	3	4	5	6	
2	3	4	5	6	7	8	7	8	9	10	11	12	13
9	10	11	12	13	14	15	14	15	16	17	18	19	20
16	17	18	19	20	21	22	21	22	23	24	25	26	27
23	24	25	26	27	28	29	28	29	30	31			
30													

マイタウンクラブ

印の番号でウェブ上からも、詳しい情報をご覧いただけます。「ウェブ申」と記されたものは、ウェブ上から申し込みができます。

http://www.mytownclub.com
[携帯電話は末尾に/cpを]

あつぎにぎわい落語会

9月17日、15時～17時。レンブラントホテル厚木（中町2-13-1）。市内在住の立川志菴（元・立川らく八）による二つ目昇進披露落語会。特別ゲスト・立川志らくが一席披露。定員120人。2,000円。☎直接、電話またはファクスに〒住所、氏名、電話番号、人数（4人まで）を書き、にぎわい処 ☎225局2840・FAX221局7790へ。申し込み順。

あつぎの自然を歩く2

9月30日、10時～12時30分。青年の家跡地自然園（下川入1365-8）。トンボなど秋の虫の観察。市内在住在勤在学の方30人。無料。☎9月23日までに郷土資料館 ☎225局2515へ。抽選。ウェブ申 ☎120308

手作り製品展示・即売会

9月8・9日、10時～19時。コープかながわ厚木戸室店（戸室5-6-1）。厚木・愛川・清川の就労継続支援事業所や知的障害者施設などの紹介と利用者が作った製品の展示・即売。☎当日直接会場へ。☎すぎな会・川原 ☎247局0311。

オストメイト健康相談会

9月16日、13時30分～16時30分。パートナーセンター。皮膚・排せつケア認定看護師の講演や個別相談など。人工肛門・人工ぼうこう保有者の方とその家族など。無料。☎当日直接会場へ。☎日本オストミー協会神奈川支部 ☎0466・45局4216。

全国一斉法務局休日相談所

9月23日、10時～16時（受け付けは15時まで）。横浜地方法務局厚木支局。登記や遺言に関する問題、家庭や職場などの人権問題の相談。☎当日直接会場へ。☎横浜地方法務局厚木支局 ☎224局3163。

体育協会のスポーツ教室

☎120359

◆第2回初心者弓道教室

10月1・4・11・15・18・22・25・29日、11月1・8日（全10回）。10時～12時。

東町スポーツセンター。初歩的基礎技術の講習。市内在住在勤在学の方20人（児童・生徒は除く）。3,000円。ウェブ申 ☎120363

◆初心者バドミントン教室

10月12・16・19・23・26日（全5回）、19時～21時。南毛利スポーツセンター。初歩的基礎技術の講習。市内在住在勤在学の方30人（児童・生徒は除く）。2,000円。ウェブ申 ☎120356

いずれも申し込みは、ハガキ、ファクスに教室名、〒住所、氏名（ふりがな）、年齢、電話番号を書き、9月15日（必着）までに〒243-0039温水西1-27-1体育協会 ☎247局7212・FAX248局7151へ。抽選。

◆初心者・シニアテニス教室

10月4・11・18・25日（全4回）、9時30分～11時。南毛利スポーツセンター。初心者・シニアの方30人。無料。ニューボール2缶をお持ちください。☎往復ハガキに〒住所、氏名、性別、電話番号を書き、9月12日（必着）までに〒243-0122森の里4-5-16市ファミリーテニス協会事務局・座本 ☎248局7173へ。抽選。

◆骨盤スッキリ体操

10月1日、10時～12時。玉川公民館（七沢175-6）。膝や腰に負担の掛からないセルフ骨盤矯正エクササイズ。市内在住の方40人。無料。☎健康づくり課 ☎225局2201へ（9月7日から受け付け）。申し込み順。☎120379

◆年末年始のテニスコート無料開放

《期間》12月29日～1月3日《施設》厚木テニスコート、南毛利スポーツセンター、猿ヶ島テニスコート、荻野運動公園、若宮公園《利用時間》①9時～11時②11時～13時③13時～15時④15時～17時《申込期間》12月の利用は9月中、1月の利用は10月中。☎マイタウンクラブからお申し込みください。抽選。☎スポーツ課 ☎225局2530（荻野運動公園と若宮公園は公園緑地課 ☎225局2410）。

◆アクア転倒骨折予防教室

10月3日～12月26日の水曜（10月31日を除く、全12回）、10時～

12時。レオスイミングスクール厚木校（田村町9-28）。市内在住で65歳以上の方20人（要支援または要介護の認定者を除く）。無料。

☎直接、電話またはハガキ、ファクスに教室名、〒住所、氏名、生年月日、電話番号を書き、9月14日（必着）までに〒243-8511高齢福祉課 ☎225局2388・FAX221局1640へ。抽選。ウェブ申 ☎120378

◆健康スイミング秋期 高齢・障がい者教室

◆高齢者健康づくり教室

市内在住の60歳以上で自力でプールに入れる方。Aコース（初心者）＝9月25日～11月13日の火曜、11時30分～12時30分。Bコース（多少泳げるが息継ぎができない方）＝9月25日～11月13日の火曜、10時～11時。Cコース（クロールで息継ぎができる方）＝9月28日～11月16日の金曜、14時～15時。Dコース（15分以上泳げる方）＝9月25日～11月13日の火曜、14時～15時。ウオーキング＝①9月26日～11月14日の水曜、15時30分～16時30分②9月27日～11月15日の木曜、10時～11時。アクアビクス＝9月25日～11月13日の火曜、15時30分～16時30分。

◆障がい者教室

市内在住で障害者手帳や療養手帳を持つかそれと同等の18歳以上の方。Eコース（介助が必要ない方）＝①9月26日～11月14日の水曜、14時～15時②9月27日～11月15日の木曜、11時30分～12時30分。Fコース（介助者の同伴が必要な方）＝9月26日～11月14日の水曜、11時～12時。

いずれも会場は、総合福祉センター水浴訓練室。☎9月2日～8日（9時～17時）に直接、総合福祉センター6階水浴訓練室へ（新規の方は本人確認書類が必要）。☎水浴訓練室 ☎225局2968。抽選。

◆「ひよこコミュニティ保育」子育て講座

9月18日、10時。上荻野分館（上荻野1925-1）。「親心の幸福論～子育てで育む地域の絆～」をテーマに講演。無料。☎当日直接会場へ。☎ひよこコミュニティ保育・石塚 ☎242局7839。

平成24年度下半期 インターネットモニター募集

まちづくりに生かそうあなたの声

「広報あつぎ」や市の施策・サービスなどについて、市民の皆さんから意見を伺います。月2回アンケートを実施。頂いた回答は、市の広報活動や今後の事業に生かしていきます。

《対象》市内在住在勤在学の18歳以上で、Eメールを送受信できる方《期間》10月～3月（6カ月間）《謝礼》回答実績に応じ、図書カードを進呈。☎電話またはEメールに〒住所、氏名、生年月日、電話番号、メールアドレスを書き、9月18日までに広報課 ☎225局2043・e-mail=0200@city.atsugi.kanagawa.jpへ。公募 ☎320007

にぎわい爆発！あつぎ国際大道芸2012

キッズピエロ大募集

あつぎ国際大道芸でピエロ服を着て、チラシの配布などをするスタッフを募集します。一緒にフェスティバルを盛り上げましょう！

《日時》11月10・11日、10時～14時。
《対象》市内在住の小学生各日40人（両日参加できる方を優先）。☎電話またはファクス、Eメールに〒住所、氏名（ふりがな）、保護者名、生年月日、学校名、電話番号、希望日を書き、9月28日までに商業にぎわい課 ☎225局2840・FAX221局7790・e-mail=nigiwai-dokoro@city.atsugi.kanagawa.jpへ。抽選。

東日本大震災復興支援事業

第5回

かながわ フードバトル in あつぎ MAX

マックス

地元で愛される県内各地のご当地グルメが厚木に集結。30種類以上のグルメが熱いバトルを繰り広げます。いろいろ食べ比べて、神奈川の新しい味を見つけましょう。

問商業にぎわい課 ☎225局2840

うまさを 感じて
食べて 感動。

- 会場 厚木中央公園
- 時間 10時～16時



会場MAP



10月7・8日は **うまい** **甘い** **楽しい** を同時体験

かなキャラ大集合!

- 会場 市役所西側駐車場
- 時間 10時～16時



おいしい匂いに誘われて、県内各地からご当地キャラが厚木に大集合。7日は熊本県から「くまモン」も参加します。握手会や撮影会など、みんなで楽しく遊びましょう。

問広報課 ☎225局2448

あつぎスイーツランド 2012

- 会場 厚木公園
- 時間 10時～16時

どれから食べようかな?



写真はイメージです

厚木のおいしいスイーツはいかがですか。ケーキやシュークリームなどの洋菓子から、まんじゅう、どら焼きといった和菓子まで厚木のスイーツを一度に楽しめます。

問商業にぎわい課 ☎225局2840